

ワケ カタチには理由がある(28)

～ビーチクラフト C-45



本機は、戦前(1937年)から戦後(1969年)にかけて製造された、小型旅客機のベストセラー、Beechcraft model 18の米国陸軍/空軍版の機体です。実に32年間に亘り製造されたこの機体の総生産機数は9000機にもなり、地味な脇役の機種としては、異例の数に上っています。それだけに、軍用機だけでも、地味なオリーブドラブ塗装、迷彩塗装、練習機用の派手なツートン塗装など様々なものをネット上で見ることができますが、塗装によって、コロコロ印象の変わる機体でもあります。日本でも、海上自衛隊がSNBの形式名で、白と赤の派手な塗装を施し練習機として使用していました。この作品の機体は、戦後の米国空軍の、キリっとした制服を着た(?)ちょっとお堅い塗装です。上から見ると前後に幅のある主翼と双尾翼がマッチョに感じられて、要人をエスコートするSPの印象で、思いのほか似合っています。ちなみに、私は、ビーチ(Beach)の連想から、勝手に、ビーチクラフト社はフロリダあたりにある会社かとず〜っと思っていたのですが、実際は、海のないカンサス州、ウィチタにある会社でした。ビーチ(Beech)とは樹木のブナのことだったというオチですw。

【模型について】

カナダのホビークラフト(Hobbycraft)製1/72のインジェクションキットです。同業者の模型友人Tさんから方法を教えていただいた、クオレスのメタル塗料を使った最初の作品でもありました。

(中川裕幸 2021年6月)